

## 金沢大学角間キャンパスから新たに記録されたカヤネズミ

著者	水野 昭憲, 井上 耕治, 高橋 雅雄, 山口 順司, 和田 陽介, 中村 浩二
雑誌名	金沢大学自然計測応用研究センター年報 = Annual report / Institute of Nature and Environmental Technology, Kanazawa University
巻	2003
ページ	107-111
発行年	2003-01-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19600">http://hdl.handle.net/2297/19600</a>

## 金沢大学角間キャンパスから新たに記録されたカヤネズミ

水野 昭憲<sup>1</sup>・井上 耕治<sup>2</sup>・高橋 雅雄<sup>2</sup>・山口 順司<sup>2</sup>・和田 陽介<sup>2</sup>・中村 浩二<sup>3</sup>

<sup>1</sup>〒920-2324 石川県吉野谷村中宮；<sup>2</sup>〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学理学部生物学科；

<sup>3</sup>〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学自然計測応用研究センター

Akinori MIZUNO<sup>1</sup>, Koji INOUE<sup>2</sup>, Masao TAKAHASHI<sup>2</sup>, Junji YAMAGUCHI<sup>2</sup>, Yousuke WADA<sup>2</sup>  
and Koji NAKANURA<sup>3</sup> : New Record of Japanese Harvest Mouse (*Micromys minutus*)  
from Kanazawa University Kakuma Campus, Kanazawa

**ABSTRACT :** Harvest Mouse (*Micromys minutus*) is the smallest wild mouse found in Japan. Only a few records of this species have been reported from Ishikawa Prefecture, so that it is designated as a species of Data Deficient in the local Red Data Book. In 2003, 12 nests of this mouse, one of which was with five babies were found in grasslands on Kakuma Campus of Kanazawa University for the first time. Grasslands must be managed carefully to conserve the habitat of the mouse.

**Key words :** Harvest Mouse, *Micromys minutus*, Kanazawa University, Red Data Book.

### まえがき

カヤネズミ (*Micromys minutus*) は、成体で頭胴長 50~80mm、尾長 61~83mm、体重 7~14g の日本に分布するネズミでは最小の種類で、草地・休耕田・沼沢地などのイネ科植物が密生し、地表に水のたまったあとに生息する。地表から高さ 70~110mm に鳥が作るような草を裂いて編んだ球形の巣を作り、巣材としてススキ、チガヤ、ヨシ類などが用いられる。繁殖期は春、秋の年 2 山型であるがまれに夏にも繁殖し、1 回に生まれる仔の数は 2~8 頭である (阿部ほか, 1994)。

北陸地方では極めて限られた地点からだけ記録されていて、「いしかわレッドデータブック動物編」(石川県, 1999) では、記録が少ないために「情報不足」に指定されている。全国カヤネズミ・ネットワークで収集した情報の 2003 年までのまとめによると、石川県でのカヤネズミの生息状況は、2000 年から 2003 年までに加賀市、小松市、金沢市、辰口町から 4 カ所の記録がある (全国カヤネズミ・ネットワーク : <http://www.kayanet-japan.com>)。

2003 年 9 月末に金沢大学角間キャンパス内の除草が行われた際、刈り取った草の中から開眼していないアカンボウ 5 頭の入ったカヤネズミの巣を水野が確認した。それ以降、繁殖が終了すると思われる 11 月まで巣の調査を実施した。

### 調査方法

角間キャンパス内でのカヤネズミの生息状況を確認するため、ススキ、チガヤなどイネ科植物が群生している草原を中心に草で編んだ巣の存在を調査した。集中調査は、2003 年 9 月 30 日、10 月 15 日、25 日、11 月 8 日に実施した。10 月 25 日は金沢大学「角間の里山自然学校」のメンバー 4 名も参加し、角間キャンパスとその周辺にある調整地周辺、道路沿いの草地、角間川沿いの草地を調査し

た(図1)。確認された巣については、巣に利用された植物名、巣直径、巣高(地表面から巣の底まで)、巣の色(新しさ)、周辺環境、巣の状態などを記録した。

オオヨシキリ、ホオジロ、セッカなどの鳥類は、カヤネズミと同様のハビタットを好み草を材料とした巣を作るが、カヤネズミの巣は入り口がほとんどわからないような球形であること、調査した季節には鳥類の新しい巣がないことなどから、今回の巣がカヤネズミのものである容易に判定できた。

自動撮影カメラ(メーカー:麻里府商事, Fieldnote 45mini super)を巣の近くに設置し成体の撮影を試みた。3個の巣について延べ8台、延べ60時間設置した。

### 調査結果

金沢大学角間キャンパス内で、9月に7巣、10月に5巣、合計12個の巣を発見した。カヤネズミの巣を観察した場所は地図(図1)の範囲であった。角間キャンパス(約200ha)は、金沢市北東部に位置し、医王山麓の丘陵地の標高100mから200mの丘に囲まれた盆地にあり、1985年までは小集落があったところを大学移転のために大規模に土地造成したところである。今回カヤネズミの巣を確認したところは、すべて金沢大学角間キャンパス造成地内の標高70mから100mの位置であった。

それぞれの巣材・巣の位置・サイズなどを一覧表(表1)、写真(図2)に示した。

カヤネズミの巣が発見された場所の植生は、大学移転前の植生図(金沢大学理学部, 1984)の分類ではヤブツバキ クラス域代償植生に属するススキ群団の高茎禾本草原であった。キャンパス造成に伴い発生した裸地に緑化のために種子がまかれてから約15年が経過した場所で、ほとんどは自然の植生回復に任されているが、道路わきや駐車場周辺では毎年1回から2回草刈りされている。

発見した巣のうち11個は、ススキとチガヤの高さ80~165cmに掛けられ、巣径は7~9cmであった。1例だけセイタカアワダチソウに営巣しているものを確認したが、巣材はそばに生えていたススキを主に使っていた。

11月には新しく創られた巣は発見できなかった。11月以降は、前に作られていた巣も雨に濡れて崩壊が早く、12月には全ての巣が確認できなくなっていた。

自動撮影カメラによる写真撮影で、カヤネズミは写らなかった。

### 考察

石川県では、1999年までに加賀市片野鴨池と能美郡辰口町からだけ生息が確認されていた(八神, 1999)。記述された記録としてもっとも古いものは、1977年に辰口町の金沢大学研修センター敷地内の休耕田で採集されたものである(中橋・大串, 1980)。その後、2002年には金沢市河北潟、2003年には手取川河川敷での記録がある(全国カヤネズミ・ネットワーク)。また、2003年10月には、筆者の一人である水野と「滝ヶ原町鞍掛山を愛する会」によって、小松市滝ヶ原町の休耕田でも初めてカヤネズミの巣が確認されている(北国新聞朝刊, 2003.10.13)。

角間キャンパス内では2002年8月に角間川沿いでカヤネズミの巣らしきものが発見されていたが、巣の内容物がないことから、本種であるとは断定できなかった(角間の里山メイト 樋口 篤氏:私信)。それはススキの地上高120cmに草で編んだ長径10cm・短径9cmのやや縦長の楕円球状の巣であった。この特徴は、今回観察した巣の中で最も多かったタイプと似ていることから、カヤネズミの巣であった可能性がある。

今回多くのカヤネズミの巣を発見し、かなりの個体数が生息し繁殖していることを確認したが、なぜこれまでに発見されずにいたのであろうか。この地域へは近年分布拡大してきたものなのか、それ

とも以前から生息していたが数が少なく発見されていなかったのかは定かではない。現在カヤネズミは、九州から東北地方まで分布することが知られており、北陸から東北地方南部では数は少ないながら近年記録が増えている。その要因としては、①以前から分布していたが、近年注目されるようになったために記録されるようになってきた、②もともと日本の南部にいたものが次第に分布を広げている、との両論が考えられる。

ここでは、地上性で限られた植生を好む小型のネズミであるカヤネズミが長距離を移動できることは考えにくいこと、この地方には昔から茅場やヨシの茂る河川敷や潟が各地にあったことから、当地方には生息数は少ないながらも以前から分布していたが、目に付きにくかったものと考えられる方が妥当であろう。1985年に金沢大学総合移転のための土地造成が開始されてから約20年が経過していて、法面などに草地が復活し、カヤネズミの営巣に適した植生が広がり、個体数が増加していると考えられる。年に2回繁殖するので、春期の繁殖で個体数が増加し、秋の繁殖期に見やすくなった可能性もある。

この地区では、ノネコ、イタチ、テン、キツネが記録されている（金沢大学生物学科，1997）ものの、造成地内では人の影響が強いために、これらの食肉目が少ないこともカヤネズミが繁殖しやすい環境を提供したと考えられる。

今回角間キャンパス内で確認したカヤネズミは、イネ科の植物（ススキとチガヤ）を巣材として好んで利用しており、水場周辺を好んで巣を架けていることは、全国カヤネズミ・ネットワーク（2003）や畠（2004）で述べられていることと一致する。

この調査で最も重要なことは、カヤネズミが全国的にも発見例の少ない希少種であり、私たちこの生息環境を守る必要があることである。カヤネズミの生息環境を保つためには、草地の維持が必要であり、そのためには草刈りといった「定期的な植生の更新」が必要（全国カヤネズミ・ネットワーク，2003）である。

今回の発見例のように草刈りによってカヤネズミの巣を破壊することは避けたいが、一方でカヤネズミの生息環境を維持するためにクズなどの蔓性植物や灌木類の繁茂を防ぐためには、定期的な草地の手入れも必要である。幸いにも、角間地区は大学の敷地内であるので、生息環境を維持するための管理をしやすい条件にある。カヤネズミの生息に適した環境を維持するためには、植生の変化を把握しながら、草刈りの時期、規模、方法などに配慮されなければならない。

## 文 献

阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明. 1994. 日本の哺乳類; 自然環境研究センター編集 東海大学出版会, 195pp.

畠 佐代子. 2004. カヤネズミの保護. 遺伝 58: 83-87. 裳華房, 東京.

石川県. 2000. 石川県の絶滅のおそれのある野生動物 (いしかわレッドデータブック) <動物編>.

金沢大学理学部. 1984. 金沢大学移転地 (角間) の調査報告書—植生—. 84pp. +植生図

中橋典子・大串龍一. 1980. 石川県におけるカヤネズミ採集記録, 日本海城研究所報告 12: 91-92.

金沢大学生物学科. 1997. 金沢大学総合移転第Ⅱ期計画地内 動物調査報告.

八神徳彦. 1999. カヤネズミ, 石川県哺乳類研究会編 石川県の哺乳類: 52-53.

全国カヤネズミ・ネットワーク編. 2003. 全国カヤマップ (2002 特別版) 32 pp.



表 1. 金沢大学角間キャンパスで確認したカヤネズミの巣

No.	発見日	巣材	巣高 (cm)	直径 (cm)	巣の色 (新しさ)	記録	備考
1	2003年 9月29日	チガヤ	不明	7	茶色	巣、子5頭、 写真(図2)	草刈後に巣のみ発見、 中に子5頭
2	9月30日	ススキ	80	7	茶色、 一部緑色	写真(図2)	クモの巣あり
3	9月30日	セイタカア ワダチソウ	142	9	茶色	巣、 写真(図2)	使用していない
4	9月30日	ススキ	140	7	茶色	写真(図2)	
5	9月30日	チガヤ	90	8	緑色	写真	使用していない
6	9月30日	チガヤ	100	8	緑色	なし	使用していない
7	9月30日	チガヤ	100	8	緑色	写真	10月14日に巣から出 るカヤネズミを観察
8	10月15日	ススキ	130	8	緑色	写真(図2)	
9	10月15日	ススキ	不明	不明	緑色	写真	作りかけ、11月8日に 発見できず
10	10月25日	ススキ	165	8	緑色	写真(図2)	
11	10月25日	ススキ	135	6	緑色	写真	作りかけ、11月8日に は完成
12	10月25日	ススキ	110	7	茶色	写真(図2)	

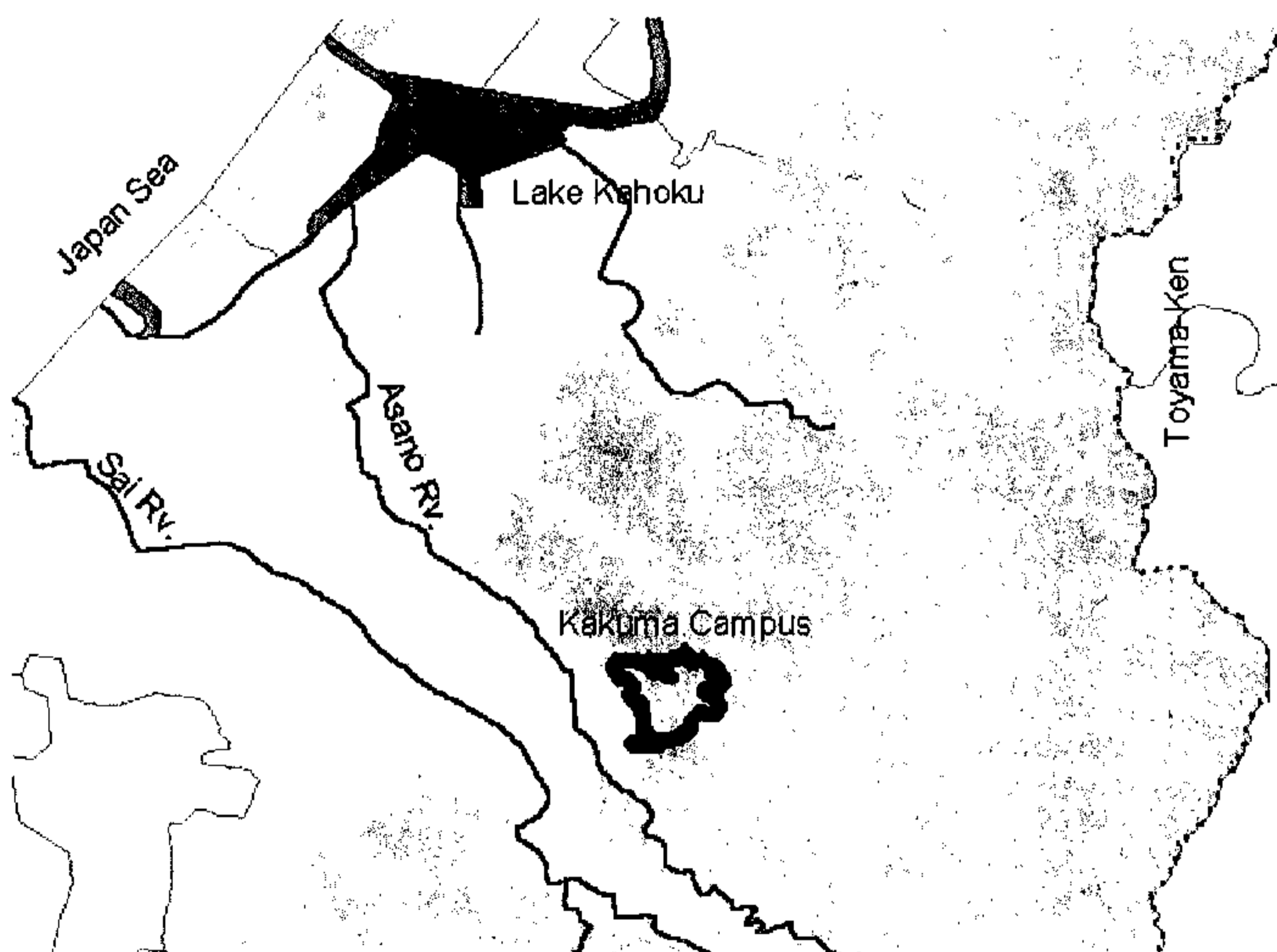


図 1. 金沢大学角間キャンパスの位置  
(濃灰色は林班区域, 点線は富山県境)



No.1



No.1 のアカンボウ



No.2



No.3



No.4



No.8



No.10



No.12

図2. 金沢大学角間キャンパスに見られたカヤネズミの巣 (番号は表1の巣番号)